

うつのみや路物語

宮ストリートストーリー

路の数だけ物語がある。
うつのみやの路を紹介
します。



埴田百目鬼町自治会
会長
荒井 文男さん

どうめき 百目鬼通り



▲本願寺(鶴田町)所蔵の
百目鬼の掛け軸

また、地元には別な
言い伝えもあります。
昔、この近辺は八幡山
と二荒山の山間で、山
にはたくさん山賊が
潜んでいました。山賊

の目が見えただけで、百の光る鬼の目から、この辺りを「百目鬼」と呼ぶようになったというものです。

また、地元には別な言い伝えもあります。昔、この近辺は八幡山と二荒山の山間で、山にはたくさん山賊が潜んでいました。山賊

百目鬼通りは、県庁前通りの一本南に位置します。通りの長さは150メートルほど。皆さんは、この百目鬼通りの名前の由来をご存じですか。

私たちの目が月夜に光る鬼の目のように見えたのでしょうか。百の光る鬼の目から、この辺りを「百目鬼」と呼ぶようになったというものです。

宇都宮の民話などでは、いくつか逸話が残されています。平安時代、宇都宮で百匹の鬼の頭目である「百目鬼」が藤原秀郷によって退治されました。その40年後、当時埴田にあった本願寺の住職、智徳上人が熱心に説教をしていると、その説教に毎日姿を見せる美しい女性がいました。その正体はあの「百目鬼」で、昔の威力を取り戻そうと、ここで流した血を吸い取るために来ていたのです。しかし、上人の説教を聞くうちに改心し、角を折り、爪をささげた、という

終戦後は、この通りが官公庁やビジネス街に近接していたことから、居酒屋などが軒を連ねるようになり、勤め帰りの人々でかなりのにぎわいを見せていました。当時は私も数軒の常連として足しげく通ったものです。しかし、現在は店が減って跡地は駐車場となり景色は変わってしまいました。また当時のように赤提灯が復活し、にぎわいを見せる百目鬼通りになってほしいと願っています。

「百目鬼」の名が残っているのは今ではこの通りと自治会だけです。百目鬼という伝説的な地名は知名度があり、みこしも有名です。中心市街地にお越しの際は、ぜひ、この百目鬼通りに立ち寄って、伝説に思いをはせてみてはいかがでしょうか。